

平成 28 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 28 年 5 月 9 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りもしくは雨で、気温 20.4～23.1℃、調査地点の風は弱く、海は静穏であった。調査当日は、春の大潮で引きが大きく、干出部がとても大きかった。干潮が 12 時 40 分、満潮は 19 時 19 分であった(東京都港湾局のデータ)。

各地点とも、例年通りマハゼなどのハゼ類やスズキが多く採取された。

水生生物調査実施中！

稚魚調査中は、写真ののぼりを掲げています。見かけた方は、お気軽にお声がけください。



2016/5/9	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	12:30-13:30	10:55-12:00	14:28-16:00
水温(℃)	21.1	19.6	20.4
塩分	18.1	26.4	13.3
透視度	45.0	15.5	32.5
DO(mg/L)	7.0	11.8	7.2
DO飽和度(%)	87.2	151.2	86.7
波浪(m)	0.1	0.0	0.2
pH	7.4	8.1	7.7
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	干潟では、1 名が潮干狩りをしていた(アサリやホンビノスガイが獲れていた)。上げ潮時に調査を行った。	干潟では、数名が潮干狩りをしていた(アサリが獲れていた)。観光客の数は 30 名ほどであった。下げ潮時に調査を行った。	汀線付近では、カワウやカモメ類の群れが休息していた。コアジサシが活弁に餌を採っていた。上げ潮時に調査を行った。

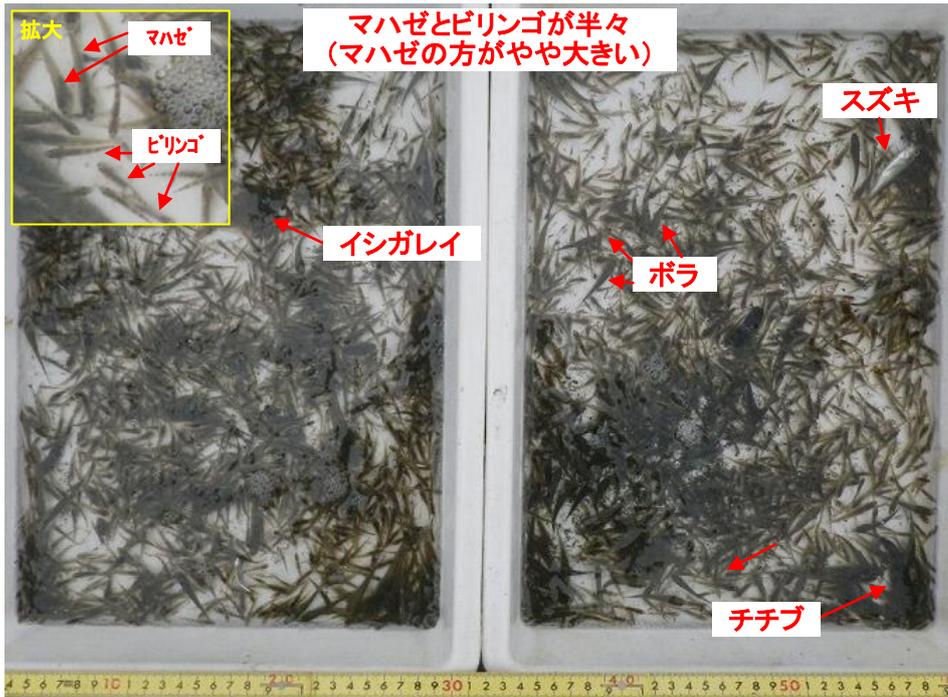
●主な出現種等 (速報のため、種名などは未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ(m)	スズキ(m)	マハゼ(m)
	ピリンゴ(m)	マハゼ(m)	ボラ(c)
	ボラ(c)	ヒメハゼ(+)	ピリンゴ(c)
	スズキ(+)	アシシロハゼ(+)	エドハゼ(c)
	ヒメハゼ(r)	ボラ(+)	スズキ(+)
魚類以外	ニホンイサザアミ(m) エビジャコ属(+)	エビジャコ属(c) タカノケフサイソガニ(r)	エビジャコ属(c)
備考	他にアユ、ニクハゼ、チチブ、イシガレイ等が採取された。	他にピリンゴ、ウキゴリ属、アサリ等が採取された。	他にアカエイ、アシシロハゼ、スズキ等が採取された。

注) 表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+ :5-20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。
春の大潮時にあたり、調査時は、この
場所としては広い干潟がみられた。

●主な出現種等



東京湾を代表する魚のひとつ。
内湾や河口域の砂泥底に生息す
る。稚魚は、初夏から秋にかけゴカイ
や甲殻類を食べて成長し、徐々に深
所へと移動する。



東京湾を代表する魚のひとつ。
ハゼ科稚魚や甲殻類を食べながら急
速に成長する。
城南大橋では、大きさの異なる稚魚が
採取された。



内湾や河口域に生息し、泥底から
砂泥底にある転石やカキ殻の間や
下などに多く見られる。



内湾のアマモやアオサの繁茂した場
所や転石域、河口域で見られる。
他のウキゴリ属魚類よりも高塩分の水
域を好む。



川を遡上する前のアユの稚魚。
干潟域には体長3~4cm になるまで
滞在し、その後、河川を遡上する。
海で生活する間は、体の透明感が強
い。
多摩川の調布取水堰での遡上調査
では、3月下旬から6月にかけて体長
4cm 以上の個体が採取されている。



江戸前のカレイとして知られる。
稚魚は干潟域などのごく浅い場所に
出現する。成魚は夏には湾奥のや
や深場の砂泥底に分布しているが、
秋から春には湾奥に分布するよう
になる。
体の模様は砂の色にそっくりである。

お台場海浜公園 採取試料



レインボーブリッジの袂にある人工の渚。背後には、東京臨海副都心の高層ビル群がみえる。

●主な出現種等



内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚である。干潟域には、早秋から夏にかけて滞在し、徐々に成長する。稚魚の体色は、金属光沢が強い。



湾奥から湾央の河口や干潟域で見られる。成魚は春になると干潟域に集中的に出現し、マハゼの着底稚魚を大量に捕食する。



河口付近の干潟域で仔稚魚が3~5月に大量発生する。稚魚が成長するにつれて河川上流側に移動する。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣穴に産卵する。



稚魚は3~5月に干潟域に出現する。成長とともに川を遡上し、河川の中流から河口域で生活する。干潟域で見られる稚魚には、ウキゴリとスミウキゴリの2種が混じっていることが多い。

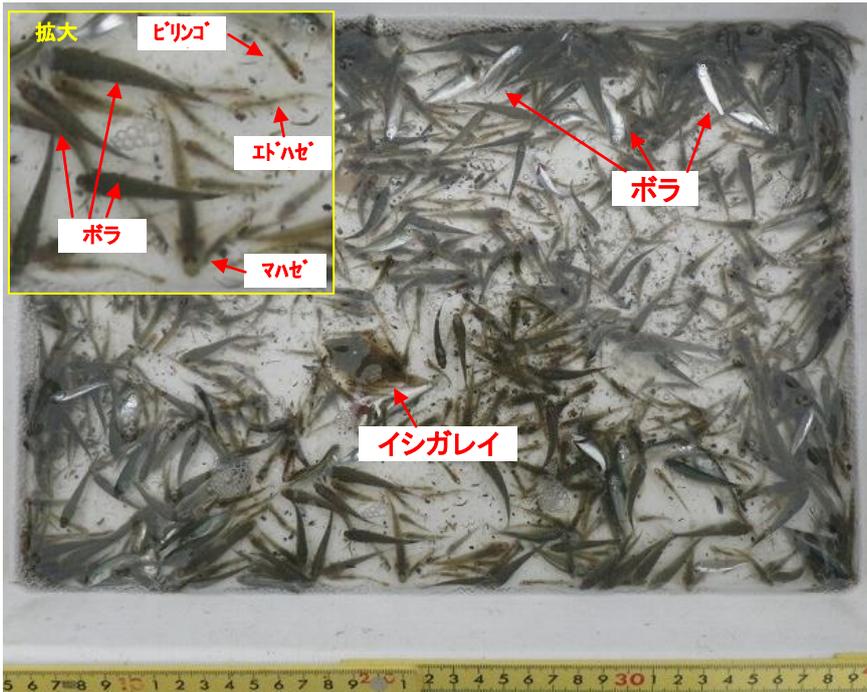


内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。魚類の稚魚などを捕食することが知られている。



潮干狩りなどで盛んに獲られている代表的な二枚貝。東京湾のものは形が細くて、模様のコントラストが強いものが多い。この時期は、潮干狩り客を目にすることが多い。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。一般の立ち入りは禁止されており、野鳥の楽園となっている。

●主な出現種等



東京湾で最も普通にみられるエイの仲間である。胸鰭(えいひれ)で海底をあおいで掘り起こして、隠れている甲殻類などを食べる。尾部の毒棘は大変危険。



内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚である。体長 2cm ほどの稚魚になると群れで来遊する。葛西人工渚では、大きさの異なる稚魚が採取された。



ビリンゴ種の解説は、お台場海浜公園参照。エドハゼ湾奥の干潟域に生息し、アナジャコアサギの巣穴がある砂泥地を好む傾向がある。アナジャコアサギの巣穴を隠れ家として利用している。小型甲殻類を食べる。ビリンゴとエドハゼの稚魚はととてもよく似ている。